

# QRコンテンツ「47都道府県地図」を活用した「わたしたちの県」の学習の提案

～北海道札幌市を例に～

●北海道札幌市立東川下小学校 教諭 関本勝幸



## 1 はじめに

今年度3年生になった児童に、令和6年度版の地図帳（『楽しく学ぶ 小学生の地図帳』）が配付されました。新しい地図帳の改訂の大きなポイントの一つは、先生方が利用でき、児童が学習において自由に閲覧することのできるデジタルコンテンツが充実したことです。地図帳に掲載されているQRコードを端末で読み取れば、600を超えるコンテンツにアクセスできます。また、47都道府県それぞれにさらに詳細な資料が用意されており、例えば「北海道」のコンテンツにアクセスすると、8つのテーマに基づいた地図が表示されます（[図1](#)）。本稿では、令和6年度版の地図帳を4年生の児童が活用する場面を想定して実際の単元や授業づくりについて考えてみたいと思います。

## 2 4年生の社会科の学習のスタートは

札幌市で採択している教科書を開いてみると、4年生の1は「県の地図を広げて」です。

- ・自分たちの都道府県の地図を眺め、気付いたこと、読み取ったことを話し合い、学習問題を設定
- ・土地の使われ方
- ・農業や漁業がさかんな地域
- ・工業がさかんな地域
- ・県の交通の様子
- ・学習のまとめとして、自分たちの住んでいる都道府県の地形、産業、交通を総合化してまとめる

という単元の学習の流れになっています。また、その学習の過程として絵地図や写真地図などさまざまな種類の地図に触れること、棒グラフなどの簡単な資料を読み取ること、等高線から土地の高

さを読み取ることなども取り上げられており、少ない時数の中でも知識・理解面でカバーしなければならない内容が多いといえます。

そのような中で、4年生の児童が自分たちの住む都道府県や市町村へと焦点化しながら、より身近に学習できるよう、教科書だけではなく、各自治体で「わたしたちの〇〇市」のような社会科副読本を監修・作成し、授業で活用している学校も多いと思います。そして、どの副読本も学習指導要領および教科書の内容をカバーし、補う内容になっていますから、先述のような学習の流れをそのままフォローすることになります。

いずれにしても、教科書や副読本だけで学習を進めようとする、地名、海、島、川や山脈、その場所や方角など、前段として覚えなければいけない基礎的な知識が多く、単調で暗記・定着を促すような授業展開になってしまいがちです。

そこで、地図帳と併せてデジタルコンテンツを活用した学習展開をご紹介します。

## 3 地図を活用した「わたしたちの県」の学習

まず、児童と一緒に単元の課題づくりをしましょう。「3年生の社会では札幌市について学んだね。どのようなことを勉強したかな？」のように問いかけることで、児童からは「10の区がある」「人がたくさん住んでいるところと自然豊かなところがある」「製麺工場や牛乳をつくる工場がある」といった発言を集め、「玉ねぎや果樹園など農業がさかんな地域もある」「小樽へ続く札幌自動車道や旭川へ続く道央自動車道がある」などと整理します。土地利用や農業、漁業、工業、交通な

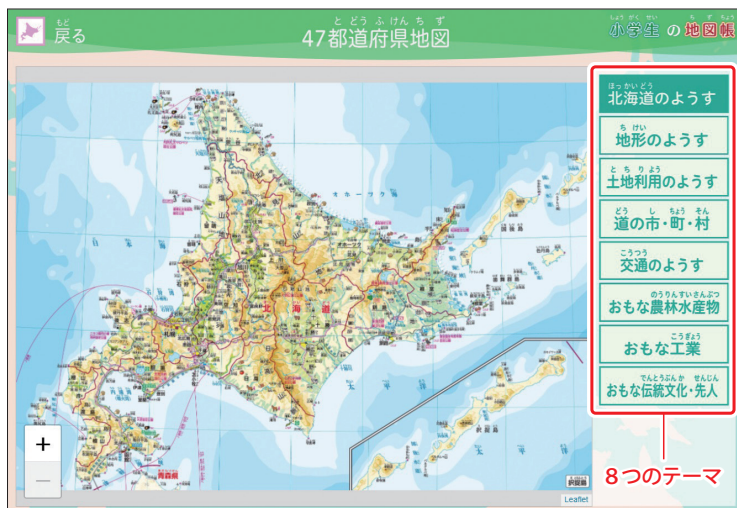


図1 QRコンテンツ「47都道府県地図」 「北海道」

QRコンテンツはこちらから



どの要素をピックアップしておくといよいでしょう。

黒板には北海道の白地図<sup>\*</sup>を拡大して貼ります。そのうえで「4年生は学習がぐんと広がって、北海道全体を見ていくよ。どのようなことをみんなで調べたり考えたりしたいかな？」と投げかけます。フラットな思考で考えられるように、提示するのは白地図とするのがよいでしょう。

「札幌は10の区があったけど、北海道はいくつの市町村があるのかな？」や「高速道路はどこにあるのだろう？」「有名な場所は？」など、大きなもの、細かなもの、いろいろな疑問が出ますが、それらを一人一人短冊に書き黒板に貼っていきます。児童と「どのように分類できるかな？」と話し合いながら土地利用、農業や漁業、工業、交通と項目別に分け、「北海道についてのみんなの疑問を解決していこう！」とまとめ、導入の1時間とします。

次時以降は各項目について学習していきますが、次項ではその代表例として土地利用の学習の場面を紹介します。

#### 4 デジタルコンテンツを生かした学習展開を

児童に地図帳p.77「①北海道地方」を開かせます。そして左上に記載されているQRコードを読み取らせ、「47都道府県地図」の「北海道」へ進むと、北海道の地図が出てきます（図1）。右側のツールバーには「地形のようす」「土地利用のよ

<sup>\*</sup>白地図は帝国書院のウェブサイトからダウンロード、印刷できます。

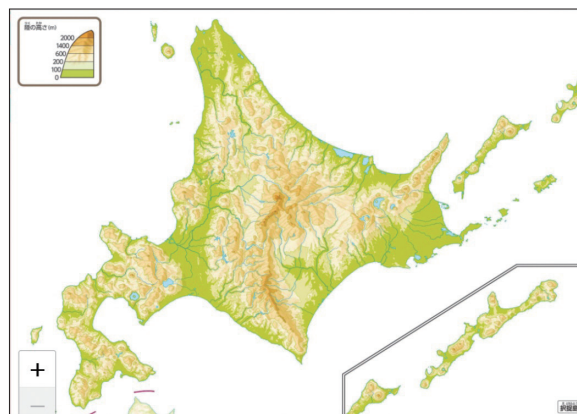


図2 QRコンテンツ「地形のようす」

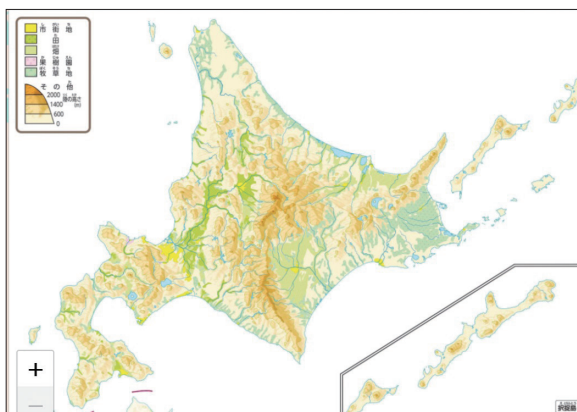


図3 QRコンテンツ「土地利用のようす」

うす」などの項目が並んでいます。このコンテンツのよいところはおもに3つあります。

- どの項目で見ても基本としている地図が全く同じ
- 拡大と縮小が児童の手元で簡単にできる
- クリックしたり二つの地図を並べたりすることで、地図を見比べ、地形と産業など複数の項目を関連付けながら話し合うことが容易にできる

児童の机上には地図帳とタブレット端末（デジタルコンテンツ）を並置できるので、毎時間都道府県の地図を印刷し、ワークシートを作成して児童に配付する必要もありません。

ここからは、「地形のようす」と「土地利用のようす」を見比べながら北海道の土地利用の特色を考えてみましょう（図2 図3）。

「市街地」、「田」や「畑」、「果樹園」や「牧草地」人間が活動できるフィールドはおおむね緑で、茶色のところは土地利用が難しいと気付くことができます。地図の比較から分かったことを板書に整理し、「人間が生活したり作物をつくったりすることができるのは平野や盆地が多いね」とまとめ

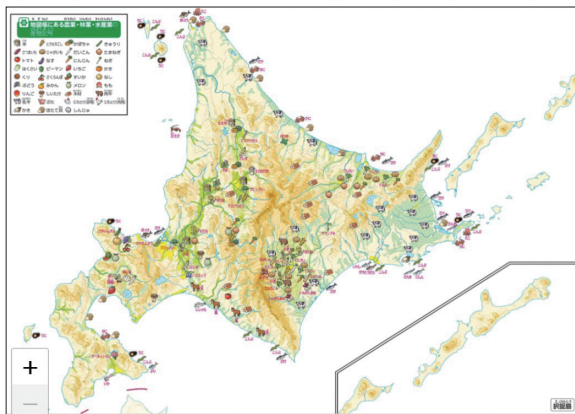


図4 QRコンテンツ「おもな農林水産物」

ます。石狩平野には石狩川、十勝平野には十勝川と、主要な平野には大きな川が流れていることや、人口の多い大きな市は平野や盆地にあること、平野は海に面していることに気付く児童がいるかもしれません。児童の声を生かして、まとめの際に「平野や盆地ではどのような野菜をつくられている?」「海に面しているまちではどのような魚がとれているの?」などに触れておくと、次時へのつながりが見えます。

1時間の学習を振り返り、確かめる場として、地図帳やデジタルコンテンツを参照しながら北海道のおもな地形の名前を復習するとよいでしょう。タブレット端末や地図帳を持ち帰らせ、自主学習の課題とすることも効果的です。

## 5 地図を活用して、学びをアップデート!

地形と土地利用の関連が見えてきたら、次の時間は農業や漁業との関連です。デジタルコンテンツ「おもな農林水産物」を参照してみましょう(図4)。「さあ、北海道ではどのようなものが生産されているかな?」児童の関心をもとに「野菜チーム」「果物チーム」「漁業チーム」に分けて、デジタルコンテンツと地図帳と、併せて調べていきます。

生産されている場所も一緒に地図で確かめられますので、農業については「やっぱり平野や盆地での生産がほとんどだ」といえるでしょうし、果樹は山間部のふもと、当然ですが漁業は港町に、それぞれ地図記号があることが見えてきます。地図帳では、巻末の都道府県の統計資料も参考にな



図5 エスコンフィールド北海道  
令和6年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.79

ります。

土地利用を考える中で地形が大きく影響していることを農業や漁業を通して確かめていくと、その事実に深まりが生まれます。学習を積み重ねながら、児童の地図の中の情報がより豊かになり、そしてそれぞれの項目が関連付けられていく、地図がアップデートされるイメージで学習を進められたらと思います。

この後に工場の分布、主要な国道・道道(県道)・そして高速道路をこれまでの地図に重ねて見ると、大都市間の人の移動、物流がはっきり見えてくるはずです。鉄道や空港と関連付けると、北海道の産業やインフラの全体像が、4年生ながらにつかめてくるのではないのでしょうか。

最後に、令和5年に開業した北海道日本ハムファイターズのホーム球場、「エスコンフィールド北海道」を確認してはどうでしょうか(図5)。地図を見ると鉄道、高速道路、空港とアクセスのよさがはっきり見えます。野球を見に来る人、プレイする選手の利便性に気付く児童もいるかもしれません。

## 6 ページをめくりながら、画面を見ながら～おわりにかえて

今回は地図帳とデジタルコンテンツを併用した学習を提案いたしました。学習に際しては、児童の一人1台端末で使用できるように、各都道府県で整備されているさまざまなアプリケーションも活用するとよいと思います。手元の地図を見て、話し合い、考える中で、それまで見えなかった関連やつながりが見えてくる、そんな学習を目指しましょう!

※帝国書院ウェブサイトでは、「47都道府県 ワークシート・活用例・地図モノクロ画像」をダウンロードできます。こちらから

